

令和5年度中野市長定例記者会見（11月） 顛末

- 期 日 令和5年11月27日（月）
- 時 間 午後1時30分～2時05分
- 会 場 市役所5階 52・53号会議室
- 出席者 4社（北信ローカル、テレビ北信、信濃毎日新聞、新建新聞）

<質疑応答>

○発表の内容について

【信濃毎日新聞】

県の補助金がつくという関連の中で、紙おむつの処理に関するものと自転車用ヘルメットの購入に関するものがあったが、県の補助金を活用して市独自の事業として行うものなのか、それともどこの市町村でも行っているものなのか、詳しく伺いたい。

【企画財政課長】

県の補助金については、県の補助金の制度に則っているので県下どこの市町村でも対象になる中で、本市については本年度より使用済み紙おむつの対応をしている関係でゴミ箱の購入事業について補助金を充てていきたいと考えています。

自転車用ヘルメット購入支援についても、県が1/2の補助の事業を行われるので、本市も取り組んでいくという事で、他市の状況については把握していません。

【信濃毎日新聞】

何かメニューがあつてそこから選ぶという事なのか。それとも独自性があつてこれから始める事業という事か。

【企画財政課長】

保育については正確には「保育対策総合支援事業費補助金」ということで、県の方で2/3の補助金の制度があるので特別というわけではないですが、自転車用ヘルメットについては今年度から県が初めて創設した事業になります。

【信濃毎日新聞】

市民会館の条例の一部改正について、これは具体的に言うと。

【くらしと文化部長】

現在、内部で詰めているところではありますが、市民会館がリノベーションとなるため大ホール、多目的ホール、各会議室等の利用料金の設定が必要になります。

今までの古い料金とは違い、新しい料金体系で行いたいと考えています。

また、開館時間及び使用時間についてもその中で決めていきたい。

【信濃毎日新聞】

イラストレーター「ほし」さんの個展について、「ほし」さんも何か長野県と縁があるのか。

【市長】

あくまでも横浜 DeNA ベイスターズを通してではありますが、本人も牧秀悟選手が中野市出身という事で中野市に来ていただいて個展を開いていただき、来年もまた開催をします。

【信濃毎日新聞】

牧秀悟選手が今年非常に活躍している中で、何とか大使のような市として牧選手の活躍を称えながら、まちづくりに活かしていくような考えはあるか。

【くらしと文化部長】

市からも市民栄誉賞の授与など行っていますが、スポーツ関係が自分でも得意という話があって、まだ下段階ではあるが球団と本人と協議をしています。

【信濃毎日新聞】

どのような方向性か。

【くらしと文化部長】

牧選手自身はスポーツ関係が得意という事もあって、スポーツ大使等が出来ればという希望は持っているようですが、球団がいろんな権利を持っている事から球団との交渉が第一になると考えています。

【信濃毎日新聞】

4人の方が犠牲となった中野の立てこもり事件から半年が経過したという中で、市として被害者支援条例など対応をしてきたと思うが、この半年の中で市長はどのように受け止めてきたか。

【市長】

半年前だが、あっという間に過ぎたという気がします。ついこの間のような感じで、被害にあわれた方の心の傷というのは、きっとかなりの年月がかかって治癒されるのではないかと感じています。

中野市としては、被害者支援条例を短期間に条例制定をしましたが、これに関しては被害者の方の人権を考えた場合に早めに制定をして良かったと思っています。

いろんな意味で「まさか我が市に、我が町に」というように、こういう事件がこの中野市で起きるといふ事が衝撃でありました。今後も1700ある自治体の中で、違った形でこういう問題が起きても不思議ではないかなと条例を制定されていない地域の方には一刻も早く条例を制定していただいた方が安心安全のため、平穏な生活を過ごすためには必要かと思えます。

こういう条例が実施されない、使われない方がいいのですが。

【信濃毎日新聞】

条例が制定されない方がいいという話・・・

【市長】

条例が制定されない方がいいのですが、こういう時代で中野市でもまさかこのような事件が起きるとは思っていなかったのも、どこで起きても不思議ではないので条例自体は早めに作られた方がいいのではないかと考えています。

【信濃毎日新聞】

市長就任から3年が経過したが、3年間の振り返りと思う事、残り1年の任期どのように市政の課題に取り組んでいくか。

【市長】

公約が形になっているものもあります。形にはなっているがその後の続きで、ものを作る事が目標ではなくて、あくまでも交流人口・関係人口を増やしてやがて定住人口を増やすというひとつの物語の中での取っ掛かりと思っています。

この中野市の、まだやらなくてはいけない課題は公約以外にもまだあると感

じています。結論から言うと、道半ば、道の途中であるという感覚。

【信濃毎日新聞】

道半ばという表現だったが、どんな所が一番の課題でやらなくてはいけないと思うか。

【市長】

大きな問題でいうと公共施設を20パーセント削減しているが、プラスマイナスでいうと10パーセントに近い所に来ています。

まだ10パーセント削減されておらず、これは今までの既得権やいろんなしがりみがある中で、中々減らすという事に対して批判や賛成といった様々な意見を聞いていおり、やりにくい部分ではあります。

この辺を次の世代のためにスリムに出来る所はスリムにして、先々に送らない。何故かという、我々が高齢になってきているので社会保障費などが伸びる。なので今のうちにスリムにして次の世代に負担がかからないようなある程度の線まで持っていくことが1点かと思います。

あとは、まだまだ社会の中でハード的なものやそれを活用するためのソフトがまだまだ動いてないかなという所が2点目。

3点目は少子高齢化になったが、コロナ禍の3年が過ぎている中で、不登校のお子さんが増えているのが危惧する問題ではないかと思う。そういう課題を少しずつ前進しながら解決されていくのが役目ではないかと思います。

他にもあるが今のところはその3つをあげておきます。

【信濃毎日新聞】

スリムにしたいということだが、保育所の民営化といったそういう事か。

【市長】

保育所の場合はそれが目的ではないので、保育所2園としても面積から行くと大した数字にはならず、もっと大きな割合のものもあります。

他にもまだやらなくてはいけない部分もあるのでそういったものを含めて、あとそんなに期間はないと思うのでできるだけ。公共施設最適化の中にも割合があるので。

【信濃毎日新聞】

不登校の子供が増えているという部分でいくと、不登校のお子さんのために何か対応や廃校を活かしたフリースクールなど考えているか。

【市長】

そういった所も含めて、教育委員会、教育長と進めていくつもりであります。

【信濃毎日新聞】

そういった意味では、道半ばということでおっしゃられた中でも大きな課題があると思うが残り1年でやりきるのは難しい面があると思ったがその先も含めて課題解決に・・・

【市長】

まだ1年あるので1年でどこまでその問題が出来るか、精一杯ちゃんとやります。

【信濃毎日新聞】

その先については。

【市長】

道半ばで。道の途中です。